

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Basal cell carcinoma treated with Mohs surgery in Australia II. Outcome at 5-year follow-up	
	論文の日本語タイトル	オーストラリアにおける基底細胞癌に対する Mohs surgery II.5年後の治療成績	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCQ18-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	16112352	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of the American Academy of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号	3	
	ページ	452-457	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Leibovitch I	Oculoplastic and Orbital Division, Department of Ophthalmology and Visual Sciences, Royal Adelaide Hospital, University of Adelaide
	その他著者 1	Huilgol C	
	その他著者 2	Selva D	
	その他著者 3	Richards S	
	その他著者 4	Paver R	
	その他著者 5		
その他著者 6			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌に対する Mohs surgery の有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	オーストラリアの大学病院 (多施設)	
	対象者	1993～2002 年の基底細胞癌患者 3370 例 (初発 1886 例、再発 1484 例)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	Mohs surgery (凍結組織法)	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	3370 例のうち 98.4%が頭頸部で、組織型は nodulocystic が 29.3%、infiltrating が 28.3%と多かった。5 年再発率は初回治療病巣で 1.4%、再発病巣で 4%であった。 再発予測因子として有意と考えられたのは、再発歴 ($p<0.001$)、Mohs surgery 前の期間 ($p=0.015$)、浸潤性の組織型 ($p=0.13$)、Mohs ステージ数 ($p<0.001$) であった。		
結論	Mohs surgery による 5 年再発率は低く、有用な治療法である。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 組織型については検定上の有意水準は満たしていないが、著者は有意と結論付けている。	